



国立大学法人 帯広畜産大学

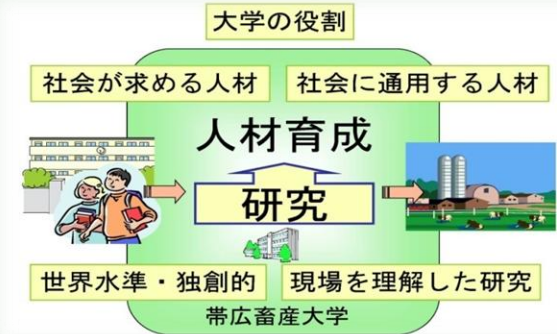
国際的に活躍できる人材の育成

平成25年7月25日



帯広畜産大学のミッション

「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献することをミッションに掲げ、地球規模課題の解決を視野に入れた農業分野の専門知識・技術の教育研究を通じて、国際性のある人材育成を目指している。第2期中期目標期間においては、幅広い見識と国際性を有し、実践力のある人材の育成を目標としている。



帯広畜産大学のグローバル人材育成

学 際

獣医学と農畜産学の広い視点

国 際

世界規模の広い視点

実 学

社会で通用する学問の視点

食を支え、暮らしを守る「国際専門職業人」
〈帯畜大型グローバル人材〉

国内外の課題解決

日本復興

気候変動

食料安全保障

TPP

エネルギー

環境保全

etc

- 本学の在學生・卒業生を長期隊員・短期隊員としてパラグアイ共和国の東南端イタプア県に派遣し、家畜飼養管理技術、家畜の健康・衛生管理技術等の向上に係る支援により同国の酪農の発展を図るとともに、海外における国際協力経験機会を通じたグローバル人材の育成を行う。

- 事業実施期間：平成24年4月～30年3月の6年間

■ 派遣隊員の概要

【長期】派遣期間：2年（国内研修3か月含む）

派遣人数：1期2年につき4名派遣し、3期6年で12名を派遣

対 象：大学院修士・博士前期課程在籍者、卒業生・修了生

【短期】派遣期間：約2カ月（8月～9月※平成24年度に限り3月）

派遣人数：毎年度3～5名程度（6年間合計で30名程度）

対 象：学部3年次以上の在校生

- 長期・短期の在校生の派遣活動は、履修科目として単位認定



JICAと連携協力協定締結

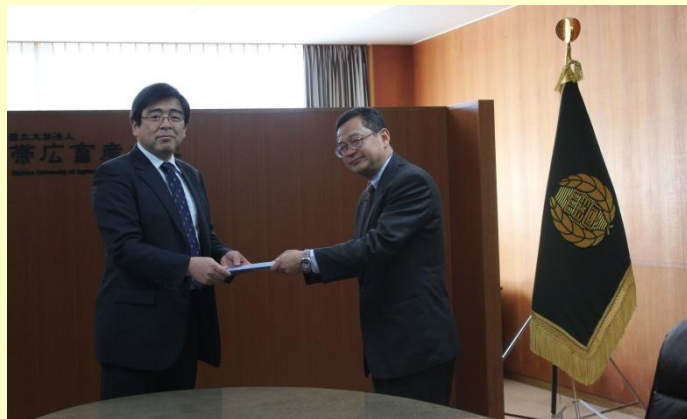
(平成17年2月／平成22年4月)

－我が国の大学として第1号－

JICAと帯広畜産大学は、双方の連携による獣医・農畜産分野の「国際協力に資する人材の育成」及び「開発途上地域への国際協力」に必要な事項を定め、以て開発途上地域への国際協力事業の質の向上及び国際貢献、学術研究及び教育の発展に寄与することを目的に、本協定を締結する。

(連携協力の対象)

- ・国際協力人材育成のための教育プログラムの実施
- ・JICA研修員・留学生の受入れ
- ・教職員等のJICA専門家としての派遣
- ・教職員等及び学生のJICA活動への参加 etc.



「帯広－JICA協力隊連携事業」

合意書締結(平成23年8月)

長期と短期のセットによる隊員派遣プログラムは我が国初の試み

(目的)

本事業は、酪農において乳量・乳質の向上を図り農家の生計向上を必要としているパラグアイ共和国において、JICAが行う青年海外協力隊事業に大学の専門知識・技術を有効に活用することにより、パラグアイ共和国の農畜産分野に係る国際協力の質の向上を図るとともに、学生等のグローバルな視点を持った人材育成を図ることを目的とする。



帯広畜産大学 帯広-JICA協力隊連携事業 支援委員会

【任務】

- ・学内派遣前研修
- ・派遣中の技術支援
- ・科目履修上必要な指導
- ・派遣学生等の学内選抜 等

【構成(教員8名)】

- ・A(長期担当責任者、食品工学)
- ・B(短期担当責任者、家畜生産獣医学)
- ・C(畜産物利用学、糖質化学)
- ・D(家畜飼養学、家畜管理学)
- ・E(臨床繁殖学、生殖生理学)
- ・F(家畜栄養学、家畜繁殖学)
- ・G(農業経済学、開発経済学)
- ・H(スペイン語、国際政治学)

・長期隊員の報告に
基づくアドバイス
・現地訪問等による
技術支援

パラグアイ側

○実施機関

- ・イタプア県庁(エンカルナシオン市)
- ・コロネル・ボガード市役所
- ・ヘネラル・アルティーガ市役所
- ・サンペドロ・デ・パラナ市役所

(協力機関:コロニアス・ウニダス農協)

長期隊員4名

イタプア県庁に配属され、各市で活動
現地各実施機関と連携協力

短期隊員

長期隊員の活動を補完

青年海外協力隊事務局

北海道国際センター(帯広)

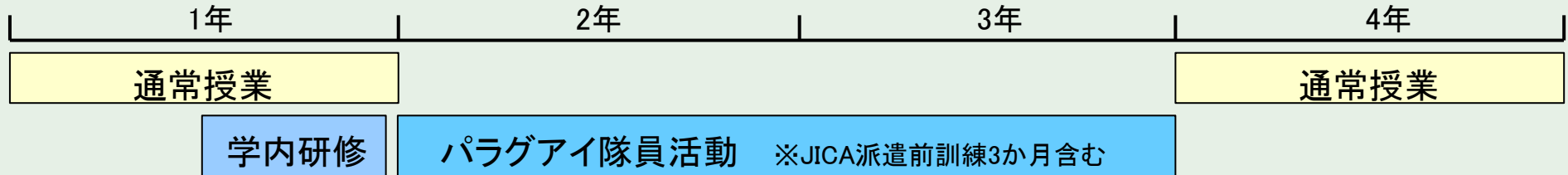
JICA

パラグアイ事務所

関係機関において年2回ステアリングコミッティを開催し、成果・方針・課題等を共有

長期隊員：大学院修士・博士前期課程在籍者

- 長期履修制度を活用して、休学・退学することなく長期隊員として現地で活動（履修期間は4年以内）
- 隊員活動期間中の取得可能単位数は最大8単位

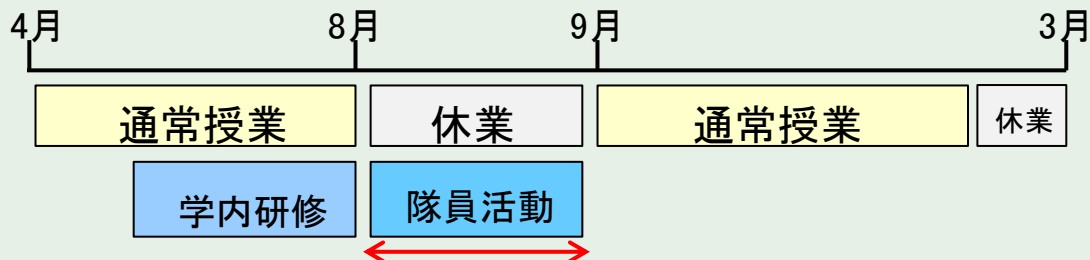


- ・海外フィールドワークⅡ（4単位）
- ・その他、専門分野や修士論文作成に応じて習得可能な科目
 修士課程 ⇒ 特別研究Ⅰ又はⅡ（4単位）
 博士前期課程 ⇒ 課題研究Ⅰ又はⅡ（4単位）

隊員の活動報告等を踏まえ、支援委員会教員と指導教員が協議して単位認定

短期隊員：学部3年次以上の在校生

- 夏季休業期間中に派遣
- 隊員活動の認定単位数は2単位



- ・学部／海外フィールドワーク（2単位）
- ・大学院／海外フィールドワークⅠ（2単位）



派遣学生に対する効果

平成24年度派遣・短期隊員3名の感想 —活動報告からの抜粋—

■ 今日で調査活動は終わりです。そこで、夕食時には3人で調査を振り返り、反省会をしました。農家への提案を見据えた上で調査することが出来たか、農家の立場に立った提案をすることが出来たか。まだまだ知識が不十分で、言葉の壁やうまく説明できない点もたくさんありましたが、私たちにとって精一杯の活動はできたように思います。何よりも自分たちにとって、とても貴重な経験ができました。

■ 農家と連絡を取り合ってくださった3名の長期隊員、ドライバー兼通訳をしてくださったジョニーさん、同行いただいた木田先生、多くの方々の支援があったからこそ、完遂できた活動です。このような日本では得難い経験が出来たことに、感謝したいです。

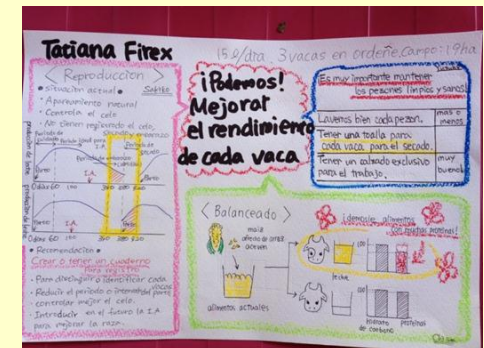


■ イタプア県庁で短期隊員3人がそれぞれ搾乳衛生、飼養管理、繁殖管理に関する調査結果を報告しました。会場に来ていた農家の方の中には、講演中にメモをとっている人もいましたので、私たちの調査報告がきちんと伝わっている印象を受けました。次の短期隊員が来るころには、今よりも良い牛群になっていれば本当にうれしいです。

■ この地点は20日前にアスンシオンからコロネル・ボガード市に移動するときにも通った道。この写真を撮影した時は、この調査ももう終わってしまうのだなというさみしい様な気持ち、そして達成感も感じることができました。

■ アスンシオンに到着後、JICAの事務所で活動報告を行いました。この活動報告を通して学んだこと感じたこと、苦労したことなどをそれぞれ報告しました。また、今後6年間続くプロジェクトの方向性などについても話し合いました。今回私たちが調査したデータが、今後の長期・短期派遣隊員の活動に活かしていただけたら、これほど嬉しいことはありません。

■ パラグアイでの経験は私たちにとって、生涯忘れることのできないものになりました。この経験を、今後どのように生かしていくのかということが、私たちにとっての大きな課題であると感じております。





アスンシオン大学との学術交流協定
(1986-)



JICA草の根技術協力事業
[東端畑作地域・酪農技術向上支援]
(2011-2016)

帯広-JICA協力隊連携事業
(2012-2017)

パラグアイ国での豊富な国際協力・学術交流実績

日・パ両国の学生、専門家、農業関係者等の
強固な連携交流関係構築

- ✓ 両国の国際専門職業人育成に寄与
- ✓ パラグアイ国全体の農業発展に貢献

